

# 緑の相談所だより

-34号-

{6, 7月号 1995. 6. 1 発行 編集: 旭川市緑の相談所}

## ◆山野草の育て方◆

日時: 6月11日(日)  
講師: 北海道山草趣味の会  
会長 村田悠治氏  
定員: 50名 無料

同時開催【山草展示会】  
6月10, 11日

## ◆寄せ植えを楽しむ◆

鉢の中に風景を作ってみよう

日時: 6月25日(日)  
講師: 旭川市緑の相談所  
相談員 本郷 仁  
定員: 60名 無料

講習会のご案内

## ◆コガネムシ類の防除◆

幼虫の薬剤による防除

日時: 7月9日(日)  
講師: 旭川市緑の相談所  
相談員 小島 博昭  
定員: 60名 無料

時間はいずれも午後1~3時

## ♥親子で楽しむ押し花絵づくり♥

小色紙「押し花でつくるふるさとの風景」  
ハガキ「乳花むくメルヘンの世界…トンボ」

日時: 7月23日(日)  
講師: 押し花絵研究会  
会長 加藤廸子氏

定員: 30組(親子) 実費: 500円税込  
持参用具: ボンド、ハサミ、ピンセット各々  
1本、文ちゃん各々1個、鉛筆。

お申し込み・お問い合わせは

☎65-5553

※定員になりしだい締め切ります。

緑の相談所では、緑化に関する知識や技術の普及のための講習会や相談を行なっています。講習会は毎月第2、第4日曜日を中心に開催しており、また相談業務は火曜日から日曜日(月曜日は休館日)まで、毎日午前9時から午後5時迄電話による相談と当相談所窓口にて行なっていますのでぜひ気軽にご利用ください。

**酸性土とは？**

酸性反応のある土のことで、土の酸性の度合いはpH（ペーハー）という値で示されます。たとえば、pH7が中性で7より値の小さい方が酸性で、7より大きい値の方がアルカリ性ということになります。

日本の植物のほとんどは、中性から弱酸性で生育するものが多く、ツツジ、シャクナゲ類（サツキも含む）は弱酸性で生育が良く、ブドウ、バラ、ラベンダーなどはアルカリ性を好みます。アジサイの場合は酸性土では青が強く出てアルカリ性では紅色が強くなるといわれていますが、今のところはっきりした説明はつかないようです。したがって青色系の品種では油粕を多く与え、紅色系品種では石灰を与えるようにします。

**カエデとモミジのちがいは？**

カエデとモミジの区別については、いろいろといわれていますが、植物の分類上では区別されていません。葉がカエルの足に似ているところからカエルデと呼ばれていたのがカエデに転化し、モミジ（紅葉）が美しいため紅葉植物の代表としてのモミジが異名となったといわれ、一般にモミジと呼ばれているものは紅葉の美しいものに限定されています。

**アリの防除方法は？**

アリの場合、地中や朽ち木の中に巣をつくる昆虫ですので、アリによる直接の害は考えにくく、しいて言えば木の根元に穴を掘る程度のものですが、間接的には被害をあたえていることになるかもしれません。

アリの場合アブラムシ類との共生により、アブラムシ類を運んだり、アブラムシ類の天敵となるテントウムシ類を追い払うなどして、アブラムシ類の繁殖を助ける働きをしています。いろいろな面でアリに助けられているアブラムシ類が植物類に大きな被害を与えることとなりますので、アリ自身の直接の害はなくても、間接的には植物に被害を与えていることとなります。

アリの駆除方法としては、樹木の根のまわりにアリメッツ、アリアトールを散布してアリを駆除するようにします。

## ■春の剪定■

剪定の基本は適期におこなうことによって木を若返らせて花や木の型を楽しむための一つの手法です。

時期を間違えた剪定は、木を弱らせたり、来年の花芽を取ってしまったり、何のための剪定なのかわからなくなってしまいます。時期を間違えずに適期に剪定をするよう心がけることが大切です。

### ●イチイ（オンコ）

強剪定（太い枝を切り取る枝抜き剪定）は今の時期おこなわないほうが良い。

成育期に入ってから強剪定は一時的にでも成育が止まったり、木が衰弱したりします。強剪定は3月下旬から4月上旬におこなうようにします。

今の時期におこなう剪定は弱剪定の切りつめ剪定です。6月下旬くらいまでに当年枝（今年伸びた枝）か前年枝（昨年伸びた枝）くらいまでの枝を切りつめます。当年枝だけの切りつめ剪定であれば、6月中に1～2回程度の剪定をおこなえば型が早くととのいます。7月に入ってから剪定は切りつめた葉先や、小枝の先が枯れてきますので7月に入ったら切りつめ程度の剪定であってもおこなわないようにします。

### ●ツツジ、シャクナゲ類

花が終わったらすぐか、時期的におくれて咲いたものは花が終わりかける前に切りつめ剪定をおこなうようにします。

ツツジ類は7月中旬に入ると来年の花芽をつける新しい枝を充実させることが大切です。

クロフネツツジは休眠期に入る時期も早いので、花芽の形成期も早くなりますので、6月上旬以降の切りつめは要注意です。

レンゲツツジの場合は切り口の枯れ込みが心配されますので、出来るだけ軽い剪定（当年枝の切りつめ剪定）で終らせるようにします。

## ■コガネムシ類の薬剤による防除■

コガネムシ類の幼虫は1～2年土中で生活し、成虫となって地上に飛び出し、夜飛びまわり日中は土中で繁殖をつづけます。コガネムシ類の幼虫は庭木類の毛細根を噛み切る根切り虫といわれるものです。今年もこの種の被害が出始めていますので、土の表面に鉛筆くらいの穴があいていたら掘り起こし、幼虫がいる場合はスミチオン乳剤の1000倍液をジョウロで1㎡当たり5ℓ程度注入し、防除するようにします。

スジコガネ

成虫



幼虫



ヒメコガネ

成虫



ナガチャコガネ

成虫



幼虫



## 6月の園芸作業

\* 露地・花壇・・・春花壇の後始末は下旬、夏花壇用の苗の移植は上旬から。下旬には夏花壇の植え込み。春花壇を作らなかった場合は上旬から夏花壇の植え込み。露地の草花では、ハナショウブやアヤメ類、プリムラの仲間の株分けは花の後で。宿根草への追肥、球根類の花がら摘みも忘れずに。

\* 鉢花・・・伸びすぎてしまっている莖葉は切り詰めて形を整えます。葉挿し、莖挿し、芽挿しによる繁殖は中旬以降。花木類や木物の緑枝挿しは下旬から来月の初めにかけて。サツキ、シャクナゲ類で植え替えの必要なものは花の後で。シャクナゲは花後早い時期に花がらを摘む。山野草は中旬から朝夕のシリンジ（霧水）が効果的。全般に風通しを良くし光を良く当てるが、エビネやオモト、地生の野生蘭などは必要に応じて光の量を調節しながら管理する。屋内の鉢物も出来るだけ外の空気にあてるが、冷える夜は屋内に取り込む。害虫が勢いを盛り返してくる時期、防除に心掛ける。

\* 観葉植物・・・中旬以降、晴天のときは種類に応じて適度の遮光をする。鉢替え、株分け、挿し木、取り木の適期です。空気が乾燥する時期になり、また戸外に出した鉢は乾きやすいため湿度の維持、灌水に注意する。鉢花に準じて害虫の防除にも心掛ける。

\* 洋蘭・・・乾燥を嫌うパフィオペデルムを除いて中旬からは戸外で管理できる。日光は葉焼けのしない範囲で強い方が良いが遮光の準備をしておき、午後からの直射日光は避ける。風通しを良くし、リードバルブが伸びている株は極端な乾燥を避け、休眠中の株は乾かし気味に管理する。休眠中の株には肥料を与えない。夕方、葉にシリンジをすると効果的。置き肥は月に一回新しいものと置き換える。

## 七月の園芸作業

\* 露地・花壇・・・暑い季節には咲いた花の寿命も短く、体も弱ります。日中の疲れと汚れを夕方のシリンジで洗い流し、花がらは摘み取ります。全体的に花が一段落したキンギョソウやサルビアなどは切り返しをしてやると、次の花上がりが揃う。春咲きの球根類は葉の色が黄変しはじめたら掘り上げて陰干し、お盆過ぎまで風通しの良い涼しい場所に貯蔵する。来年の春花壇に使用するパンジーは下旬早々に播種。暑さを避け日除けの下で発芽させた後日光に良く当てます。シンクイムシ、マイマイなどの駆除。

\* 鉢花・・・生育が盛んになり花が咲き続ける時期で肥切れ注意だが一般的には強い肥料は禁物。置き肥も控え目に。水やりは午前中の早い時間に。日除けを適宜行う。夕方のシリンジは鉢物全般に有効。山野草は涼しい環境が良い。熱帯花木は外の強光下で管理する。花付きの悪いフジやウメの水切りは、“葉が萎れたら水をやる”を繰り返し、枝の伸びを抑えると蕾の付きが良くなる。春咲きの山野草の採種も適期。名前や貯蔵法などは種類に応じて。中旬以降濃い肥料は控えて、花の咲き続ける鉢は標準よりも薄い液肥を与える。埃りと乾燥でハダニ類が、高温でアブラムシ類が発生。一般に挿し木は上旬まで。サボテンの挿し木は今月中で終える。

\* 観葉植物・・・部屋の中での鑑賞は涼を呼んで楽しい時期。全般に生育が盛んになるが日中は適温を超えることもあるので、乾燥と日焼け、肥料切れに注意。挿し木は中旬までに終える。

\* 洋蘭・・・種類により60%~70%の日除けをする。気温が高すぎる日も多くなるので出来るだけ涼しく管理し、雨の日以外の夕方のシリンジが有効。乾いた風と埃りでハダニ類がつくので注意。シンビジューム、デンドロビユームの置き肥は中旬で取り除く。